

# 第1回飛び出すエコスクール

## 東灘区でごみ拾いや夢の工作教室

生3-環 中島 洋吉

こうべ環境未来館の環境学習講座(エコスクール)第1回「飛び出すエコスクール」が、9月16日(土)東灘区田中町、コープこうべ生活文化センターで開かれました。生活協働組合コープこうべ、東灘区と共催、環境局東灘事業所の協力で行われました。

こうべ環境未来館では毎月、エコスクールを開催し、自然に親しむことや、ごみと資源の重要性、地球温暖化防止などを理解するための体験型の環境学習を行っています。



道路をきれいに。ごみを拾う東灘児童館の子ども達

こうべ環境未来館は遠隔地にあるため、同館から遠方にある区に出向いて、エコスクールを開催することにしたもので、第1回は最も離れている東灘区で開催しました。当日は朝から小雨が降るあいにくの天候で、婦人会の方8名と渦森台、田中の両児童館の先生と子どもたち40名がクリーン作戦に参加していただきました。

子どもたちはそれぞれの児童館から会場の東灘区役所前の広場までごみを拾いながら集まりました。みんなが拾ってきたごみを、スタッフ、参加者みんなで分別しました。ペットボトル、空き缶、タバコの吸殻、買い物袋などがたくさんありました。

当初の予定を変更して、クリーン作戦を終了し、子どもたちを対象に区役所会議室で、環境局東灘事業所の所長さんより、分かりやすい内容の資源とごみの分別の必要性などの話をして

いただき、続いてコープこうべの環境担当課長さんよりコープこうべで取り組んでいる余った商品をごみにしない工夫、ダンボールを減らす工夫など。また野菜くずで堆肥を作ったり、商品にならないパンなどでメタンガスを発生させて、このメタンガスを車の燃料や、工場のエネルギーに使っていることなどを分かりやすく話してもらいました。

午後からは、会場をコープこうべの生活文化ホールに移して、環境未来館

グループわ東灘区会の会員の指導で工作教室が開かれました。親子や児童館の子ども達を対象に、もっとも身近にあるペットボトルを使った「夢の昆虫」というテーマのリサイクル工作です。

この工作教室のねらいは、リサイクル、リユースの学習に併せて昆虫をイメージした工作を通して自然の生きものに興味を持ってもらうもので、映像で昆虫について学んだ後、準備された材料を使って、自分たちの自由な発想の昆虫作りに挑戦しました。子どもの発想はすばらしいもので、ごみを食べる昆虫などすばらしい夢の昆虫ができました。

これらの作品は10月2日から2週間、東灘区役所のロビーに展示して、多くの区民の皆さんに見てもらいました。今回のエコスクールは、天候の関係でクリーン作戦の初期の目的は果たせませんでした。児童館子ども達には昆虫作りを通じて、昆虫に興味を持ってもらえたと思います。

## 里山を知り学ぼう

### 親子で集まれ自然遊び塾

生7-環 松本 恒司

去る10月1日、シルバーカレッジの北側の山林で、恒例の「里山塾」を催しました。

ここはグループわの里山クラブの皆さんが八年にも亘って、下草刈りをして、邪魔な木を伐採して整備したところ。お陰で今では、希少種のササユリも200株あまり、キキョウやオミナエシも咲くようになり、良い生態系が出来上がっています。

当日は雨模様にもかかわらず、40人あまりの親子連れが参加してくださいました。まず二班に分かれて林の観察、ツリガネニンジンやシラヤマギクの可憐な花たち、ここらでは珍しいオケラやセンブリも咲いていました。キノコではシロテングタケやツバフウセンタケなどがちらほら。

最後に伐採した小枝や落葉、刈り払った草を積み上げた通称「落ち葉ンク」を拡げてみました。そうしたら勾玉のようなコガネムシやタマムシの幼虫がいました。堆肥の匂いも忘れて子供たちは夢中。

けれども、雨模様为本降りとなり、散策は早めに切り上げ、昼食の後は、ドングリ遊びや木工細工遊び、木の名札作り、それからイタドリや笹の葉で昆虫作り、木の実でのリース作りなど盛沢山。でも、こうした素朴な遊びは、森の恵みの余りものを利用した古来よりの日本人の知恵。人と自然の良い付き合いに育てられたもの。そう言うことを今後共伝えたいな、とも思っています。

終了は午後3時。この催しのリーダーの谷口さん、本部の皆さん、助っ人として加わってくださった木工グループの皆さん、いつもながら一生懸命の里山グループの皆さん、ありがとうございました。

